

2. 乳がんの治療

治療方法を決める時はもちろん、治療を始めてからも主治医とよく相談して、納得のいく方法を選びましょう。

治療の基本は手術です。

現在の標準的な手術は「乳房温存手術」と「胸筋温存乳房切除術」です。

治療には、手術のほか、放射線治療、化学療法などがあります。

《手術》

乳房温存手術

しこりを含めて乳房の一部を扇型又は円形に部分的に切除する方法です。

乳房を残しながらがんを切除するので、乳房を残したいという願いに応えられ、また術後のQOL（生活の質）の点からもこの手術方法が増えています。

胸筋温存乳房切除術

乳房温存手術ができない場合に行われる最も一般的な乳がんの手術方法で、乳房とわきの下のリンパ節を切除します。

《治療》

放射線治療

放射線にはがん細胞を殺す力があるので、治療に使われます。手術をした場合でも、小さながん細胞が残って、再発する危険があるため使います。

化学療法 (抗がん剤)

乳がんが進行すると、わきの下のリンパ節に転移したり、がん細胞が血液の流れによって骨や肺、肝臓、脳などに広がります。抗がん剤は全身に広がるのを抑える役目をします。一方で正常な細胞にも作用するため、白血球の減少や脱毛、吐き気などの副作用が現れます。抗がん剤の組み合わせで副作用を抑える工夫もされます。

ホルモン 療法

乳がんの約70%は特定の女性ホルモンに反応する「女性ホルモン受容体」という物質を持っています。乳がんはエストロゲンという女性ホルモンに反応して大きくなるといわれています。このエストロゲンの働きを抑える目的でホルモン療法が行われます。

分子標的 治療

抗がん剤はがん細胞を殺すと同時に、正常な細胞にも悪影響を及ぼします。がん細胞にのみ作用する薬が求められますが、この作用をもっている薬のひとつが「分子標的薬（トラスツズマブ）」（商品名、ハーセプチン）と呼ばれるものです。乳がん細胞の中にはがん細胞の増殖を促す「HER2」（ハーツ）と呼ばれるたんぱく質をもっているものがあります。このたんぱく質に結合してがん細胞を殺すのが分子標的薬です。